

子ども同士、そして自然とのかかわりの中で、その子なりの考え方や自発性が生まれてくれたらいいなと願いつつ、今日もどろんこになって遊んでいる。そこに生まれてくるすてきな子どもとのかかわりを期待しながら……。

(岐阜市立大洞幼稚園)

## 生まれる

菅野俊一郎



先日、私の父が、このうちに泊つていった。誰かの結婚披露宴に出たとかで、夜も更けてからの来訪だった。ちょうど私も仕事をひと区切りしたところだったので、少し酒をつきあうこととした。

私の三人の息子たちの近況などを思いつくままに話し、父も、そうか、それはよかつたなどと相槌をうつていたが、ちょっと改まった口調で、それは記録しておいた方がいい、と言う。自分は、いつさい、そういうことをしてこなかつた、ということを、このごろ、

少しばかり悔んでいるのだ。いったい、お前たちが子供だった頃、何をして、何を感じて、暮らしていたのか。それを思い起こしたくても、そうする手がかりが、何もない。思い出すのは、自分のことばかり。それが少々、残念な気をする、というのだ。父にしては、感傷的なセリフである。過去を振り返り、足し算や引き算をして、自分の人生の価値を確かめてみる、そういう年になつたらしい、と本人が言うのだから、その通りなのだろう。

また、こんなことも言っていた。さて、善とは何か、悪とは何か。お前はどう思うか。自分には、よく分からぬのだが——。もちろん、私にだつて分からぬので、ふたりで、あれこれと頭の引き出しをあけて答を探してみるのだが、見つかなかつた。キリスト教的倫理観から、湾岸戦争、交通マナーまで、話題はよんだけれど、まるで歯がたたない。混沌としていて、つかみどころがない。創造は、混沌から生まれると言うけれど、混沌は混沌のままであつた。しかし、父は、これで少し安心したと思う。考えても考へても、答がないのだから、これ以上はまさに感傷でしかない。

ところで私と言えば、このごろは、三人の息子たちの写真を撮り、仕事でつけている日記の片隅に、ひとことふたこと子供のことを書きとどめている。今朝などは、長男と次男が遊んでいるところを、録音テープに録つてみた。

さて、生まれたものは、何でしょう。

(コピーライター)